

## 会津若松水道事業ビジョン（素案）への意見募集結果報告

募集期間及び結果は下記のとおりです。

- 1 募集期間 平成28年1月25日（月）から平成28年2月24日（水）
- 2 提出方法 持参（1名）、郵送（1名）、ファクシミリ（1名）
- 3 意見件数 4件（3名）
- 4 意見の要旨と市の考え方

No.	意見の要旨	市の考え方
1	小規模受水槽の衛生管理給水及び、サービスの向上として受水槽を設置しない、直結給水の普及を加えてはどうか。	P6-5に「直結給水の拡充」として、項目を加えました。
2	P4-3、表4-1のH37年度の有収率が90.4%に対し、P8-3、表8-3の有収率が95%となっているのはなぜか。管路の更新時期から推察すると90.4%が正しいのではないか。	P3-27、表3-14の類似規模平均が90.5%であり将来に向けての数値目標として、95%としていましたが、今後の管路の更新から鑑みてP8-3、表8-3を90.4%とします。
3	強靱な水道づくりには導送配水管整備が重要で、年間の整備計画等による整備が漏水率を低くし、おいしい水道水づくりにつながる。 水道事業の情報提供・PRが大切である。 公共施設の水道設備の蛇口が不衛生である。 中水の有効活用を建設部と連携し進めてはどうか。	今後はこのビジョンにそった「安定給水のための強靱な水道」を目指し、計画的な整備の実施および災害対策を進めてまいります。 また、おいしい水道水づくりのために、「品質確保に配慮した安全な水道」の取り組みを継続し、徹底した水質管理とともに、様々な広報活動にも努め「暮らしを支える持続可能な水道」を実現します。 公共施設の設備の管理には、適切な対応が図られるよう、中水の活用も併せ、関係機関と情報共有を図ってまいります。
4	新事業ビジョンについて理解する。 長期計画であるので、今後の環境の変化に柔軟に対応できる組織づくり、人づくりが重要と考える。 従って、その時々組織（トップ～担当者まで）が状況を理解し、問題として捉え、見直し、実践する水道部のDNAが息づき、連綿と続く事を心より祈念する。	今後も皆様の共有財産である水道事業を100年後も蛇口を捻れば、安全に、安心して飲める水道水としてお届けできるよう職員はもとより、皆様と協力して水道事業経営を図ってまいります。

※中水⇒中水道（ちゅうすいどう）…生活用水のなかで、低水質でもよい用途に生活排水や処理した産業排水・雨水を供給するもの。雑用水道とも呼ばれる。その用途は水洗トイレの用水、公園の噴水などに利用されている。（出典：（公社）日本水道協会『水道用語辞典第2版』）